

熱中症予防の取組にかかる検証について

1 概要

今年度の本市の熱中症対策は、これまで行ってきた取り組みに加え、包括連携協定を締結している企業との連携により「熱中症対策庁内連携会議」を立ち上げるなど、新たな取り組みを実施し、一定の成果をあげることが出来た。

取り組みが評価され、「熱中症予防声かけプロジェクト」主催の「ひと涼みアワード2022」において、官民連携部門の最優秀賞を受賞した。

2 熱中症による救急搬送状況

別添 資料1

3 本市の熱中症予防への取り組み（下線は新規）

(1) 情報発信（暑さ指数を活用した熱中症注意情報発信）

- ・本庁舎の掲示板において周知
- ・Twitter・FMくららにおいて周知

(2) 注意喚起（熱中症警戒アラート発表時）

- ・防災行政無線による注意喚起（暑さが予想される週末にも放送）
- ・Twitter・Facebookによる注意喚起
- ・ケーブルテレビでのL字放送

(3) 普及啓発

- ・電光掲示板での啓発
- ・関係各課及び関係団体、機関による啓発
- ・市広報、ホームページ掲載による啓発
- ・庁内インフォメーションによる啓発
- ・出前講座での啓発
- ・チラシ、うちわの配布
- ・ケーブルテレビ、FMくららによる啓発
- ・市内大型スーパー、ゴルフ場等での大塚製薬(株)様作成市オリジナルポスター掲示
- ・のぼり旗（大、ミニ）の作成、設置（本庁舎、コエド市場、山車会館、蔵ナビ）
- ・市民生活課電子掲示板テロップでの啓発
- ・郵便局様でのリーフレット配布
- ・第一生命（株）様でのチラシの作成、配布

(4) 熱中症対策連携会議の開催

目的：熱中症予防や応急対応に係る知識の普及啓発と地域の実情に応じた対策を推進するため、関係各部署の緊密な連携を確保し、熱中症対策の効果的・効率的な実施方法の検討及び情報交換や共有を行う。

開催日：〔第1回〕令和4年5月24日（火）

〔第2回〕令和4年10月24日（月）

構成：①熱中症対策に関連した庁内関係16課

総合政策課、危機管理課、市民スポーツ課、環境課、福祉総務課、障がい

福祉課、高齢介護課、地域包括ケア推進課、健康増進課、子育て支援課、保育課、商工振興課、観光振興課、警防課、学校教育課、保健給食課

②包括連携協定事業所

大塚製薬株式会社、郵便局（第2回のみ）

(5) 熱中症対策アドバイザー養成講座の実施

- ・大塚製薬株式会社様の協力により、熱中症予防声かけプロジェクトが主催する講座を市職員等が無料で受講。
- ・オンデマンド方式で熱中症に関する専門的な知識を学び、確認テストを受ける。
- ・修了者には熱中症アドバイザーカードを交付。また、啓発用ツールの利用が可能となる。
- ・市職員、郵便局員、スポーツ推進員 計 173 名がアドバイザーを取得。

(6) 予防対策推進に向けた情報の把握

熱中症搬送者数・状況の確認（消防本部集計）、関係各課の取り組み調査

(7) その他

各課において、主体的に熱中症対策に取り組んだ。

4 受賞について

(1) 団体の概要

「熱中症予防声かけプロジェクト」は、帝京大学医学部救急医学講座教授である三宅康史（みやけ やすふみ）氏を実行委員長とした、熱中症の死亡者ゼロを目指して 2011 年に活動を開始した団体。

実行委員会のもとに事務局があり、企業賛同会員、行政賛同会員、民間団体賛同会員で構成される。

他の自治体等の取組を参考として閲覧出来る他、行政賛同会員として登録をすると、プロジェクトオリジナルの啓発ツールの使用やグッズの無料提供等のメリットがある。

(2) ひと涼みアワードについて

プロジェクトの賛同会員が実施したその年の熱中症予防の啓発活動を表彰する式典。賛同会員による様々な活動を共有、また全国に発信し、熱中症予防の啓発の輪を広げていくことを目的としている。今回で 11 回目を迎え、全国から 490 件（内、行政 171 件）の取組が寄せられた。

本市では、昨年度からエントリーを開始し、昨年度は「オンライン啓発部門」の優秀賞と新人賞を受賞した。